

中津市耶馬溪町における斜面崩壊について

中津市耶馬溪町における斜面崩壊の被害状況

- 1 発生時間 平成30年4月11日(水) 午前3時40分ごろ
- 2 発生場所 中津市耶馬溪町大字金吉3921番地付近
- 3 災害規模 斜面崩壊 約1.8ha(幅約200m、高さ約100m)
- 4 人的被害 死者6名(男性1名、女性5名)
- 5 建物被害 住家(全壊)4棟
- 6 避難勧告 (最大)10世帯 26人



県の初動体制等

- 1 覚知日時 4月11日(水) 4時30分
 - 2 災害対応 4月11日(水) 4時30分 大分県災害対策連絡室設置
5時40分 大分県災害警戒本部移行
6時00分 中津市災害対策本部設置
6時20分 自衛隊災害派遣要請
9時00分 緊急消防援助隊要請(10:30追加要請)
- 4月14日(土) 14時45分 緊急消防援助隊引揚決定
4月23日(月) 11時26分 陸上自衛隊に災害派遣撤収決定



救助・救急体制

[出動機関] (順不同)

- 警察
- 消防
- 自衛隊
- 国土交通省TEC-FORCE
- 大分地方気象台
- 大分県建設業協会
- 大分大学減災・復興デザイン教育研究センター
- 大分DMAT 他

救助等の体制(警察・消防・自衛隊)

(単位:人)

	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	計
警察	130	100	120	130	130	100	90	80	80	80	60	60	50	1,210
消防	130	120	130	130	80	80	100	90	90	80	80	80	20	1,210
自衛隊	250	300	260	220	230	200	230	240	250	230	250	230	270	3,160
計	510	520	510	480	440	380	420	410	420	390	390	370	340	5,580



二次被害 防止対策

現地の防災対策



- 【防災対策一覧】
- 監視カメラ
 - ・固定式 2台
 - ・可動式 2台
 - 仮排水管 (φ1000)
 - ・2列×80m=160m
 - 計測機器
 - ・雨量計 1箇所
 - ・水位計 1箇所
 - ・伸縮計 3箇所
 - ・量水標 2箇所

5/11 17時時点

【4/15 17:00フローン撮影使用】

中津市耶馬溪町山地災害 応急復旧工事(概要)

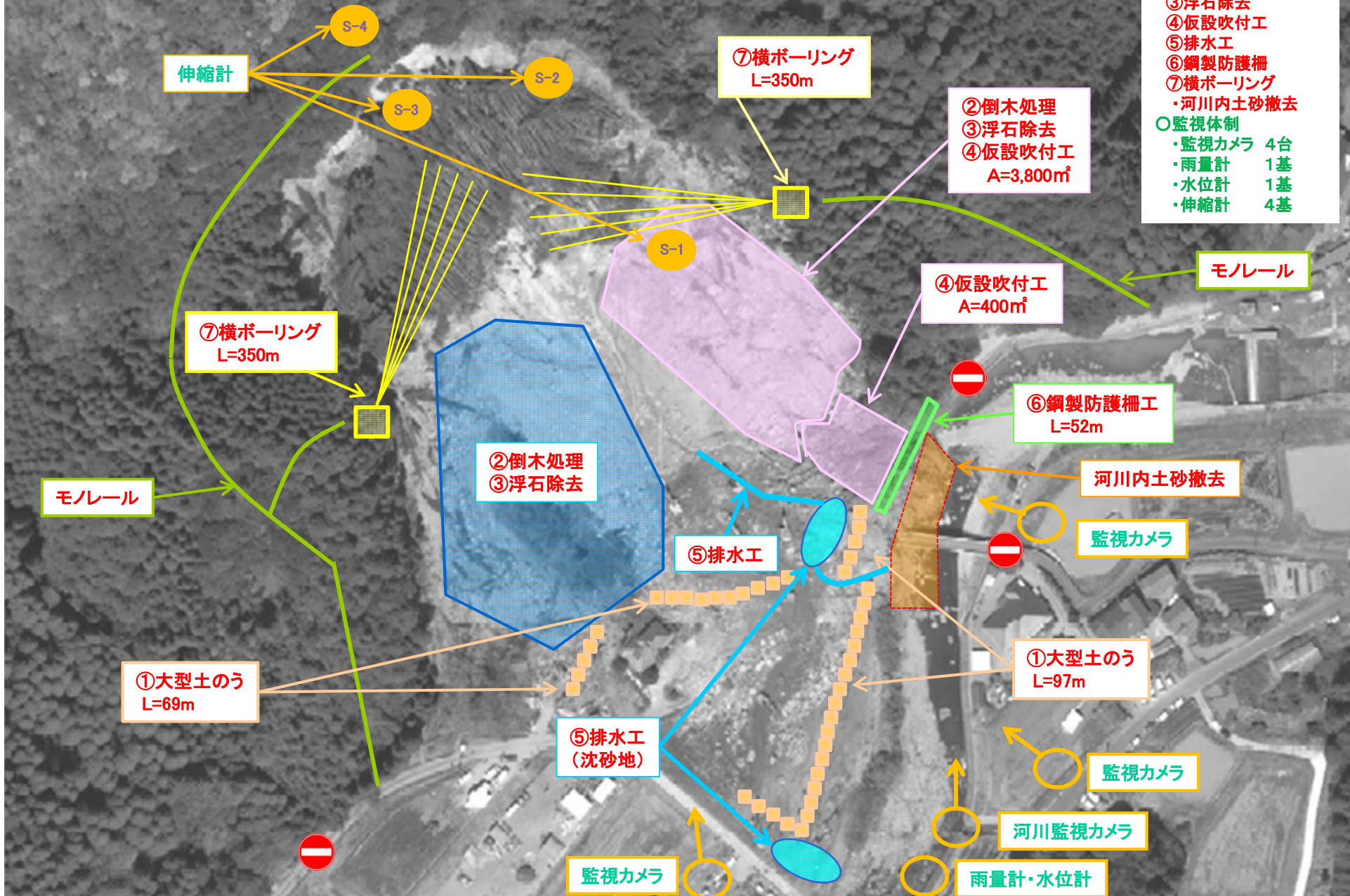
6月4日農林水産部

○応急復旧工事

- ①大型土のう
- ②倒木処理
- ③浮石除去
- ④仮設吹付工
- ⑤排水工
- ⑥鋼製防護柵
- ⑦横ポーリング
- ・河川内土砂撤去

○監視体制

- ・監視カメラ 4台
- ・雨量計 1基
- ・水位計 1基
- ・伸縮計 4基



検証状況

1 アンケートの実施（5月1日～5月16日）

対象（回答153）※（）内の数字は回答者数

- ・県防災局職員、県関係機関（農林水産部、土木建築部、県警等）職員（46）
- ・中津市（支所、消防本部を含む）職員（7）
- ・県内13消防本部（中津市消防本部を除く）職員（92）
- ・関係機関（自衛隊、国土交通省、大分大学減災・復興デザイン教育研究センター、建設業協会等）職員等（8）



平成30年度中津市斜面崩壊対応に関するアンケート（各消防本部用）

平成30年度中津市斜面崩壊対応に関するアンケートです。
調査では、今回の対応における反省を今後参考・糧にしていきたいと考えています。
お気付きになった点、気になった点等、今後につながるご意見を少しでも多く、具体的にいただけます。
※5月16日（水）17:00締切り

2 アンケート回答であげられた主な課題点

- 現地支援に関すること
- 部隊活動調整等に関すること
- 技術支援の受入・活用に関すること



3 今後のスケジュール

課題点については、関係者と検討会等を実施し、改善策・取組の方向性等について今年中に取りまとめの予定。

アンケート回答であげられた主な課題点

○現地支援に関すること

【具体的な課題の内容】

- ・ 局地的に極めて甚大な被害を受けた場合は、現地において被災市町村の出先機関の対応だけでは、十分に指揮や調整を行うことができない場合がある。
- ・ 被災市町村の規模等によっては大規模な部隊の運用や高度な資機材の活用が上手くできない場合がある。

【いただいた意見】

- ・ 中津市災害対策本部と県警戒本部の連携はある程度上手くいった。災害応急対応について、中津市災害対策本部と現地対策本部の間でイニシアティブはどこが持っているのか見えづらい面もあった。
- ・ 現地対策本部が主体となる対応には、限界があるので、総括的な役割を何らかの形でサポートする県の支援があれば良い。
- ・ 救助活動と同時に県から監視カメラ、伸縮計、雨量計等が設置されたことで、二次被害を防ぐことの重要性を再認識できた。
- ・ 助言できる者が現地対策本部に赴き、所要の調整を行うのが効率的である。

アンケート回答であげられた主な課題点

○部隊活動調整等に関すること

【具体的な課題の内容】

- ・複数の機関が同一地域で活動する場合、現地対策本部で、役割分担や情報共有を図り、効果的に救助活動を進めるよう努めたが、各機関との調整（搜索活動方針・活動範囲等）が必ずしもスムーズにいかない場面があった。

【いただいた意見】

- ・ 搜索活動が伴う困難な現場においては、多くの関係機関との調整が必要であり、情報の共有や作業の連携などのコーディネーター的な役割が求められる。
- ・ 今回、現場での搜索活動がメインであり、関係機関との連携、指示系統の一本化は一定程度とれていた。
- ・ 専門家（大分大学）の助言は、搜索活動に当たった全員にとって重要だったと感じている。
- ・ 官民の枠を超えた活動となったため、県が全体において主導的な役割を担ってもよいのではないかと感じた。

アンケート回答であげられた主な課題点

○技術支援の受入・活用に関すること

【具体的な課題の内容】

- ・被災地は、国や他の地方公共団体、民間団体、ボランティアなど、様々な機関から人的・物的な技術支援を受けることとなるが、受援側の準備やノウハウ不足等もあり、これらの支援を最大限に活用することが難しい。
- ・各機関からの技術的支援や助言が、どこの機関からの依頼に基づくものであったのかが不明確で、「立ち位置」がはっきりしない場面があった。

【いただいた意見】

- ・専門的知見の下、活動する者の安全を確保することが必要であり、中津市だけでは厳しい状況であった。
- ・大分大学をはじめ、様々な研究機関、コンサル等が介在したが、このカウンターパートや取扱い方法が不明確だった。
- ・大分大学のスタッフ等が早期に情報提供できるよう防災体制が確立されることを望む。
- ・今回以上に多数の犠牲者が出る場合は、医師の検死等の対応について今後検討が必要。